

# てかてか頭の話

小川未明

青空文庫



ある田舎いなかに、おじいさんの理髪店りはつてんがありました。おじいさんは、もうだいぶ年としをとつていまして、脊せが曲まがっていました。い  
いおじいさんなものですから、みんなに、おじいさん、おじいさ  
んと慕したわれていました。

ちようど、夏なつの昼過ひるすぎのことです。お客きやくが一人ひとりもなかつ  
たので、おじいさんは、居眠いねむりをしていました。

家いえの外そとには、きらきらとして暑あつそうに日ひの光ひかりがさしていました。  
往來おうらいの土つちは乾かわききつて、石いしの頭あたままでが白しろくなつていました。あ  
まりあついとみえて、犬いぬ一ひとぴき通とおつていませんでした。よく遊あそび  
にくる近所きんじよの子供こどもらも、みんな昼寝ひるねをしているとみえて姿すがたを見

せません。ただせみが、あちらの森もりの方ほうで鳴ないているのが聞きこえてきたばかりでした。

しらがあたま  
白髪頭しらげのおじいさんは、いい気持きもちで、こつくり、こつくりと腰こしかけて居眠いねむりをしながら夢ゆめを見みていました。

「おじいさん、僕ぼくにとんぼを捕とっておくれ。」と、隣となりのわんぱく坊ぼうやがねだっているのです。

「私わたしは、目めが悪わるくて、とんぼのほうが、よほどりこうだから、それだけはだめだ。」と、おじいさんはいつていました。

「よう、あすこにいるおはぐるとんぼを捕とっておくれ。捕とつてくれないとぶつよ。」と、わんぱく坊ぼうやがいつています。

おじいさんは、「こいつめが。」と、坊ぼうやを追おいかけよ

うとすると目がさめました。ちょうどそのとき、そこへ脊せの高いたか若わかもの者はが入はいつてきました。

「おいでなさい。」と、おじいさんは、目めをこすりながら立たち上あがりました。そして、曲まがった脊せをのして、いすに腰こしをかけて、鏡かがみに向むかっている若わかもの者の頭あたま髪かみを刈かろうといたしました。

おじいさんは、眼鏡めがねをかけて、はさみをチヨキチヨキと鳴ならしながら、くしをもつて、若わかもの者の頭かみ髪かみにくし目めを入れてみて驚おどろきました。その頭かみ髪かみは、ごみや砂すなで汚よごれて、もう幾いくねん年ても手てを入いれたことのないような頭かみ髪かみでありました。

「おまえさんは、どこからきなさった。」と、おじいさんは、若わかもの者に聞ききました。

すると、若者<sup>わかもの</sup>は、日<sup>ひ</sup>に焼<sup>や</sup>けた、真<sup>ま</sup>つ黒<sup>くろ</sup>な顔<sup>かお</sup>を向<sup>む</sup>けて、おじい  
さん<sup>さん</sup>にいいました。

「俺<sup>おれ</sup>かい、俺<sup>おれ</sup>は、山<sup>やま</sup>中<sup>なか</sup>から出<sup>で</sup>てきた。町<sup>まち</sup>なんかめつたに出<sup>で</sup>たこ  
とはねえだ。俺<sup>おれ</sup>、この間<sup>あいだ</sup>、途<sup>とちゆう</sup>中<sup>ちゆう</sup>でたいへんにきれいな男<sup>おとこ</sup>の人<sup>ひと</sup>を  
見<sup>み</sup>た。その人<sup>ひと</sup>の頭<sup>あたま</sup>は、ぴかぴかと岩<sup>いわ</sup>からわき出<sup>で</sup>る清<sup>しみず</sup>水<sup>みづ</sup>のよう<sup>よう</sup>に光<sup>ひか</sup>  
つていただ。俺<sup>おれ</sup>、どうして、あんなに人<sup>にんげん</sup>間<sup>あたま</sup>の頭<sup>あたま</sup>ちゆうものが、  
ぴかぴか光<sup>ひか</sup>るだかと、いろいろの人<sup>ひと</sup>に聞<sup>き</sup>いたら、中<sup>なか</sup>で、それは、  
鬢<sup>びんつ</sup>付<sup>あぶら</sup>け油<sup>あぶら</sup>というものを塗<sup>ぬ</sup>るからだ<sup>おそ</sup>と教<sup>おそ</sup>わった。俺<sup>おれ</sup>、一<sup>しやう</sup>生<sup>じゆう</sup>に一<sup>ど</sup>度<sup>ど</sup>で  
いいから、あんなぴかぴかした頭<sup>あたま</sup>になつてみたいと思<sup>おも</sup>つてきただ。  
途<sup>とちゆう</sup>中<sup>ちゆう</sup>で、いちばん上<sup>じやうとう</sup>等<sup>とう</sup>な鬢<sup>びんつ</sup>付<sup>あぶら</sup>け油<sup>あぶら</sup>を高<sup>たか</sup>い金<sup>かね</sup>出<sup>だ</sup>して買<sup>か</sup>つてき  
たから、これ<sup>これ</sup>を俺<sup>おれ</sup>の頭<sup>あたま</sup>にみ<sup>み</sup>な塗<sup>ぬ</sup>つてもら<sup>もら</sup>うべえ。」と、その若<sup>わかも</sup>

者のはいいました。

「それで、おまえさんはやってきなすつたか。」と、人ひとのいいお  
じいさんは、笑わらつて聞ききました。

「ああ、それでできた。ここに一本ほんあるんだが、これじやたりない  
かえ。」と、若わかもの者は、買かつてきた一本ほんの鬢びんつ付け油あぶらを懐ところなかの中から  
出だしました。

おじいさんは、それを受うけ取とつて、

「こりやほんのちよつとつけりやいいのだ。なんでこれ一本ほんなん  
かいるものか。」といいました。

すると、若わかもの者は、心しんぱい配はいそうな顔かおつきをして、おじいさんを  
見みました。

「どうかそれ一本みんな、俺の頭につけてくんなせえ。俺、せつかく買つてきただ。ちよつくらつけて光るものなら、みんなついたら、一生頭がぴかぴか光っているべえ。後生だから、どうかみんなつけてくんなせえ。」と、頼むようにいいました。

おじいさんは、髪を刈つてしまつてから、堅い鬢付け油の端を欠いて、男の頭に塗つて、ぴかぴかとしましたから、

「さあ、これでたくさんだ。こんなに頭がぴかぴかとなつた。この残りは、また今度つけるがいい。」といつて、鬢付け油を若者に渡そうとすると、この脊の高い若者は、おいおいと声をあげて泣き出しました。

「どうか、後生だから、みんなおれの頭に塗つてくんなさろ。」



と、泣きながらいったのです。

おじいさんは、しかたがなく、指の頭で、堅い鬢付け油を欠いては、若者の頭に塗りました。額から汗が流れて、指頭が痛くなりしました。おじいさんは、指頭に力を入れて、顔をしかめながら、

「このばか溶ける、このばか溶ける。」といいながら、やつとのこと、鬢付け油一本をついに若者の頭に塗ってしまいました。若者は満足して、この理髪店から外に出てゆきました。若者は、やがて往來に出ると、頭から、とめどもなくいだらと油が溶けてきました。初めのうちは、それでも元氣よく歩いていましたが、しまいには目となく、耳となく、鼻となく油が

流れこんできて、目口も開かなくなつたので、若者は、道の上のひととところにじつと動かずに立ち止まつてしまいました。

「このばか溶ける、このばか溶ける。」と、せみの鳴き声がそういつているように聞こえるかと思うと、だんだん男の体が頭から溶けはじめてきたのです。けれど、ちようどだれも路を通るものがなかつたので、それを見たものがありません。真昼の太陽の下で、男はついに溶けてしまったのです。そして、そこにただ一つ黒い石が残つたばかりでありました。

その後、用事があつて床屋のおじいさんがつえをついてそこを通りかかりましたときに、真つ黒な石を見つけて拾い上げました。「ああ、りっぱな油石だ。」といって、おじいさんは、家に

持<sup>も</sup>つて帰<sup>かえ</sup>るために、たもとの中<sup>なか</sup>に入<sup>い</sup>れてしまいました。



# 青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 2」講談社

1976（昭和51）年12月10日第1刷

1982（昭和57）年9月10日第7刷

初出：「童話」

1920（大正9）年10月

※表題は底本では、「てかてか頭《あたま》の話《はなし》」となつています。

※初出時の表題は「ぴかぴか頭の話」です。

入力：ぷろぼの青空工作員チーム入力班

校正：江村秀之

2013年11月1日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# てかてか頭の話

小川未明

2020年 7月13日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>